

たいことが』

丑『ハ、ー、あなた、どんな御頼みなんですか』

子『先生おねかひと申すは實は私は學校の室々を掃除をし暖爐をたき其他いろ／＼な用事をいたしましたしよろから、どーか御使ひ下されたい』

丑『ハ、ー 其の外に何か仕事はできませんか』

子『できませんが、先生』

丑『ハ、ー、そりやまたどーしたわけですか』

子『ハイ、私ハいつこう學問をしませんでしたから』

丑『あなたはいつたい なんと云ふ御名前ですか』

子『負雄と申します』

丑『負雄さんですか、マ、ー、おはいりなさい、

そとは今日はひどくてたまりません學校内の方がよほど結構なんです、そしてあなたはどうかこれから勉強なさるがよろしゅう御座います』

と申しまして皆々内へはいりまして扉はしめられてしまいました其仕事をたのみにまいりましたものは其時まで親切な校長さんは誰ですか知らずにかりましたのです、が、皆様は御存でしょう

一口ばなし

ある時、冬の寒い晩、主人が三助に向つて、  
主『や、一三助今晚は、大層寒いでないか』  
三『寒いって、旦那、私の精でありましねーよ』  
主『これ／＼そんな挨拶の仕様はせぬものじゃ、人が寒いといつたら、へーまことにお寒うござりま

す、この鹽梅しほばいでは、何れ雪ゆきでござりましよーといふものじや」

さて夫それから四五日たつす過ぎて、或日あるひ大層たいそう温あたかな日たがあつた。いつものよーに三助さんすけが働はたらいて居ゐる所ところへ家の女中ぢやうちゆうかやきつて來きて

女おんな『オヤ三助さんすけどん、今日こんにちは珍めづらしう温あたいことねー』

三さん『よーさ此鹽梅このしほばいでは何れ、雪ゆき……』

といつてグットつまつて

三さん『……大方おほくわたくし火事かじだんべー』

前號考ぜんごうかんがへものゝ解げ

小ちひさくつて、身體からだ中金ちゆうかねで、倒たふさに歩あるくものは、靴くつの裏うらの紙びでしよー。

この次つぎは

三人跨日さんにんはにまたがり 一人戴日いちにんはをかいたく 日月并照にっげつをらびてらし

袖貫そでを於下したに 下くだ  
これは日本にほんの神様かみさまの名なにあります、當まて、ごらん。

